

(別記)

## 2019 年度磐梯町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、会津地方の北東部に位置し、59.69キロ平方メートルと東西に広がっている。耕地の大部分が中山間地域であり、標高差により東部・中部・西部の3地区に分かれる。

町全域の基幹作物は水稲であるが、水稲を中心とした複合経営により畑作振興に取り組んでおり、東部地区においては、花卉（ハイブリットカラー）・葉茎野菜（法連草）・施設野菜（生食トマト）・菌茸類（乾燥）、西部地区においては、果樹（りんご）などを生産している。

しかしながら、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中で、地域の安定的な農業生産活動維持のため、担い手育成として、一定以上の経営規模を備えた農業者や集落営農を担い手として認定し生産への支援等を行っていくことが必要である。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

消費者（実需者）のニーズに対応した中で、適地適作を誘導し、安定的供給により消費者重視の「売れる米づくり」を進めるとともに、ライスセンター利用による品質の安定化、トレーサビリティ（生産履歴）の導入、減農薬・減化学肥料栽培など特別栽培米に取り組み、安全・安心な米の産地として販路の拡大と磐梯町産米のブランド化を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

産地交付金を活用し、直播栽培等の導入による低コスト生産の取組を支援し、主食用米から飼料用米への転換を図る。また、作付品種においては一般品種から多収品種への転換を図り、2020年度には多種品種による作付を3.0haまで拡大を目指す。

##### イ 米粉用米

該当なし

##### ウ 新市場開拓用米

該当なし

##### エ WCS用稲

該当なし

##### オ 加工用米

該当なし

## カ 備蓄米

備蓄米は、水田として活用できるため、国の根幹施策の重要な作物として振興を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、国産大豆需要の高まりのなかで、良品質の生産に努めるため、生産組織体制により団地化、乾燥調製施設利用による品質の向上を図り消費者・地元実需者との連携による需要拡大に取り組む。

麦については、播種時期が秋の長雨や、収穫期が梅雨に遭遇し登熟期間が満たなくなることから、担い手への作業集積、団地化、優良品種の確保・適正栽培管理の実施・高性能機械等の導入による生産性の高い産地の育成に努める。

飼料作物については、該当なし。

### (4) そば、なたね

そばについては、担い手への作業集積を図り、産地交付金を活用した団地化、優良品種の確保・排水対策等適正栽培管理の実施・高性能機械等の導入により生産性の高い産地の育成に努め、現行の栽培面積を確保する。

なたねについては、該当なし。

### (5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜においては、地産地消に取り組み、食料自給率向上のため、地域密着型販路（道の駅・JA）を拡大していく。また、主食用米に代わる作物支援として、産地交付金を活用し「トマト（ミニトマト含む）」、「アスパラガス」、「サヤインゲン」、「ピーマン」さらに2019年度からは「ナガネギ」、「カボチャ」、「ナス」を振興品目として新たに追加し推進を図る。

花卉においては地域密着型販路（道の駅・JA）を拡大し、主食用米に代わる園芸支援として、産地交付金を活用し「リンドウ」、「ハイブリットカラー」さらに2019年度からは「グラジオラス」を振興品目として新たに追加し推進を図る。

また、エコファーマー等による低コスト化の取組を推進する。

### (6) 畑地化の推進

該当なし

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	356.4	355.0	353.0
飼料用米	8.3	10.5	12.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	0.0	0.0	0.0
備蓄米	21.3	21.3	23.0
麦	0.0	0.8	1.0
大豆	0.1	0.6	0.7
飼料作物	0.0	0.0	0.0
そば	61.8	73.0	75.0
なたね	0.0	0.2	0.2
その他地域振興作物	6.2	9.0	9.4
野菜	5.6	8.1	8.5
・トマト(ミニトマト含む)	2.9	3.4	3.5
・アスパラガス	2.0	3.4	3.5
・サインゲン	0.1	0.1	0.2
・ピーマン	0.6	0.6	0.6
・ながねぎ	0.0	0.2	0.3
・かぼちゃ	0.0	0.3	0.3
・ナス	0.0	0.1	0.1
花卉	0.6	0.9	0.9
・リンドウ	0.5	0.6	0.6
・ハイブリットカラー	0.1	0.1	0.1
・ゲラニウム	0.0	0.2	0.2

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	トマト（ミニトマト含む）、アスパラガス、サインゲン、ピーマン、ナガネギ、カネチャ、ナス、リンドウ、ハイブリットカー、グーラシオラス	振興作物推進助成	振興作物の作付面積	(2018年度) 6.2ha	(2020年度) 9.4ha
2	トマト（ミニトマト含む）、アスパラガス、サインゲン、ピーマン、ナガネギ、カネチャ、ナス、リンドウ、ハイブリットカー	エコファーマー又は持続性の高い農業生産方式による栽培助成	地域振興作物のエコファーマー又は持続性の高い農業生産方式による栽培面積	(2018年度) 2.7ha	(2020年度) 3.5ha
3	そば	戦略作物団地化・高品質化助成	戦略作物団地化面積（そば） 単位収量	(2018年度) 30.6ha 51.8 kg/10 a	(2020年度) 37.0ha 52.0 kg/10 a
4	飼料用米（多収品種）	飼料用米多収栽培技術導入支援	飼料用米（多収品種） 多収栽培技術導入による作付面積  10a当たりの収量（多収品種圃場の平均単収）	(2018年度) 1.3ha  698kg/10 a	(2020年度) 3.0ha  557kg/10 a
5	飼料用米（一般品種）	飼料用米推進助成（一般品種）	飼料用米（一般品種）の作付面積  作業効率化（低コスト栽培技術の導入）による労働時間	(2018年度) 5.2ha  20.70時間	(2020年度) 6.8ha  17.37時間

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。